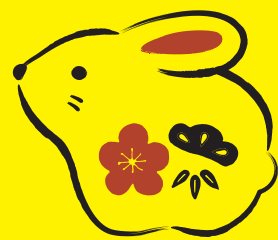


新年のご挨拶



町より



肝付町長
永野 和行

明けましておめでとうございませう。

町民の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、コロナに始まり、コロナに終わる一年でした。そのような中、ロシアのウクライナ侵攻は、衝撃的でした。

遠い国の紛争かと思つていましたが、ご承知の通り、わが国にも甚大な影響が出ました。石油の高騰、肥料や飼料の高騰、食料の高騰、電気ガスの高騰等、厳しい生活を強いられた一年でもありました。

また、コロナで教育や日常生活のオンライン化が、

先進国では日本が一番進んでいなかったことに気づき、ウクライナ紛争が起こつてからは、食料自給率が先進国では一番低いことに改めて気づかされることとなりました。そこで、政府は農業基本法を改正し、食料自給率向上を目指すと言っています。

また、日本の商業衛星はほとんどがロシアから上げていきましたが、それができなくなり、岸田総理も「ロシアのロケットを活用できない中で、ロケットの国内打ち上げ能力を拡充し、必要な人工衛星を国内から打ち上げる体制を整えます。」と国内のロケット打ち上げについて言及されました。ピンチをビッグチャンス

ととらえ、あらゆる分野で対応していく今年ではないかと思つています。

にしつかりとバトンタッチできるような土台を築くため、身を粉にして頑張つてまいります。

私の尊敬する稲盛和夫さんの言葉に「悩みなき成長はない、あいつは、可哀想だ、人間というのは、周囲からこう言われるぐらい不幸な境遇に、一度は置かれたほうがいいのかもありません。ちょうど冬の寒さが厳しければ厳しいほど、桜が美しい花を咲かせるのと同じように、悩みや苦しみを体験しなければ、人は大きく伸びないし、本当の幸福を掴むことができないのでしよう。」とあります。

本年も引き続き、新型コロナウイルス感染症へ迅速な対応をしながら、医療・福祉子育て支援の充実や、地域経済の活性化、誰もが安心して暮らし続けられる「県下一明るく元気な町」実現に全力で取り組んでまいります。

この言葉を胸に、夢は大きく、輝かしい未来をこの手でつかむため、この手でつかめなくても、次の世代

新しい年が皆様にとりまして、健康で幸せな年となりますことを祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。